

グループワークに関する オンラインと対面の効果的共存

〈グループC〉

目次

1. オンライン/対面の共存とは
2. DP達成のためのオンライン/対面の共存
3. オンライン/対面授業併用のメリット
4. オンライン/対面授業併用のデメリット
5. 「共存」を実現した授業形態
6. 今後の課題

1. オンライン/対面の共存とは

共存とは：学生・教員・職員にとって

- ①オンライン/対面それぞれのメリットを残しつつ、デメリットをなくした状態
- ②デメリット以上にメリットがある状態

⇒ グループワークを用いたオンライン/対面の共存

2. DP達成のためのオンライン/対面の共存

【(1)知識・技能】のためにはオンライン授業が活用できる

【(2)思考力・判断力・表現力等の能力】を身につけるために、グループワークを行う

【(3)主体的な態度】を育むためにグループワークの参加を促す、及びグループワークの参加度で評価する

3. オンライン/対面授業併用のメリット

学生にとってのメリット

- ・ 大学に来れない事情があっても授業に参加可能
- ・ 時間の有効活用等、ニーズに合わせられる
- ・ 録画機能などで復習が容易になる

教員にとってのメリット

- ・ 研究の都合などで時間割通りに授業が開講できない場合、オンデマンド授業を用いることで対応が可能になる
- ・ 授業で用いる資料などの印刷量が少なくなる

職員にとってのメリット

- ・ オンラインでしか受講できない事情がある学生への対応が容易になる

4. オンライン/対面授業併用のデメリット

学生にとってのデメリット

- ・モチベーション維持が困難
- ・他の学生とコミュニケーションが取りにくい（オンラインツールなどを使う必要がある）

教員にとってのデメリット

- ・レジュメなどの資料について、画面共有用、紙での配布用と2種類用意する必要がある

学生・教員にとってのデメリット

- ・グループワークに適した場所の用意が困難（しゃべりにくい、周囲の騒音）

職員にとってのデメリット

- ・オンライン環境、教室2つの準備が必要

5. 「共存」を実現した授業形態

- ・ 各回の授業参加方法をオンライン/対面から自由に選択
→学生が都合のよい方法を選択できる
- ・ オンライン/対面で分けてグループを作成し、グループワークを行う
→一つのグループにオンライン/対面が混在する不便さを解消
- ・ TA/LAの配置（オンライン/対面とも）
→学生のコミュニケーション、システム面をサポート
- ・ グループワークの参加度、最終課題（確認テスト）で成績評価
→グループワークのみでは評価が難しいため、最終課題として
レポートもしくは確認テストを併用する

6. 今後の課題

学生：受講生全員でのリアルタイムでの意見の共有が困難（マイクとスピーカーを用いることでできるが、音声が聞こえにくいなどの問題が起こる可能性がある）

教員：授業の準備が煩雑（学生のコミュニケーション・システムのサポートを行うTA/LAの配置、授業風景を映すPCの設置など）

職員：環境の整備（受講場所の確保、ネットワーク環境の用意）

ご清聴ありがとうございました。